

#### 4.3. 誰もが暮らしやすい生活環境形成に向けた課題の整理

本調査で対象とした子育て世代、高齢者、外国人ごとの課題を明らかにした上で、誰もが暮らしやすい生活環境形成に向けた課題をとりまとめた。

##### 4.3.1. 子育て環境について

既存資料の整理、アンケート調査の結果を受けて、現状の北陸圏の特徴や問題点を把握するとともに、各県における子育てしやすい生活環境形成に関する既往の取組にも配慮した上で、課題をとりまとめた。

今後の子育てしやすい環境づくりに向けた課題は、以下3点にまとめられる。

#### 【課題1】: 日常行動圏(30分圏)における移動障害の除去等、日常生活での利便性の改善が必要

- ・ 北陸圏における子育て世代の日常生活における移動圏はほぼ30分生活圏である。
- ・ 元来、女性の社会参加が多く、それを支える同居率も高かったが、近居ではあるものの核家族化が進む中で、出生率も低下傾向にある。
- ・ 女性の社会参加が高く、日常の生活における時間もない女性等にとって、自動車依存度が高いものの、ベビーカー利用者のバリアフリー要望や公共交通への不満も高い。
- ・ そのため、子育て世帯が暮らしやすい生活環境を享受するためには、30分圏を単位として、生活サービス機能を集約したコンパクトな生活圏の中で、移動のストレスのない、利便性の高い女性の社会参加を支える地域づくりが必要である。

#### 【課題2】: 都市と農山漁村の近接性を活かした暮らしの豊かさの享受機会の拡充が必要

- ・ 北陸圏は、都市と農山漁村が近接し、30分圏の中で、都市の利便性と自然豊かな農山漁村の潤いある生活環境を享受できる環境にある。
- ・ 豊かな自然環境へのニーズが高まる中、北陸圏の強みである都市と農山漁村の近接性を活かし、居住者への週末レジャー等の機会を拡充していくことが望まれる。
- ・ そのことによって、今後の定住促進においても、豊かなライフスタイルを提供することにもなるものと期待される。

#### 【課題3】: 仕事と子育てを両立できる先駆的に取り組まれる子育て支援の連携強化

- ・ 北陸圏では、ママファースト運動(福井県)やプレミアム・パスポート(石川県)など、先駆的な取組が進められている。
- ・ 各県等での子育て支援施策は共通点も多く、今後、圏域内の高速交通基盤が充実し流動性が高まることを勘案すると、地域ごとの取組を尊重しつつも、サービスの共有化・共通化を推進することが望ましい。

表 4-14 子育て環境充実にに向けた課題の抽出・整理

	特徴・問題	課題
地勢等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活中心都市を基本に生活圏をコンパクトに形成</li> <li>・地形的に生活圏の生活中心都市を基点に細長く連担</li> <li>・都市部と農山漁村部が近接して存在</li> <li>・日常の行動は30分を基本とした生活圏行動</li> <li>・農山漁村は、美しい個性ある景観や歴史・文化、豊かな農林水産物など資源を保有</li> </ul>	<p>【課題1】日常行動圏（30分圏）における移動障害の除去等、日常生活での利便性の改善が必要</p> <p>【課題2】都市と農山漁村の近接性を活かした暮らしの豊かさの享受機会の拡充が必要</p>
交通・情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の低い電車、バス等の利用</li> <li>・自動車依存度は高いものの、女性にとって日常的な移動手段が不可欠</li> <li>・特に日常生活においてベビーカーを押しながら徒歩で移動する人が歩行空間や駅のバリアフリー化を要望</li> <li>・交通事故等から守られる地域環境の整備への要望高い</li> </ul>	
生活等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期医療への不安</li> </ul>	
人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口流出は進むが、出身者のUターン希望者は多い</li> <li>・生活中心都市を除き人口減少</li> <li>・合計特殊出生率は全国的には高いものの、近年減少傾向</li> <li>・同居近居が多数だが核家族化が進展</li> <li>・共働き世帯、女性の就業率が高い</li> </ul>	
生活等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境は充実し、教育レベルも高く、子育て支援施策も先駆的に取組</li> <li>・普及の進むインターネット環境を利用</li> <li>・仕事と子育てを両立できる環境と、経済的支援への要望が高い</li> </ul>	<p>【課題3】仕事と子育てを両立できる先駆的に取り組まれる子育て支援の連携強化</p>

表 4-15 子育てしやすい環境整備に関する各県の総合計画等での取組(1)

論点	対策イメージ	新潟県	富山県	石川県	福井県	
30分圏を基本とした利便性の高い生活圏の構築	・30分圏を基本とし、女性の社会参加の進む生活圏をモデルとして、利便性向上策を構築					
子育て;社会参加する女性の暮らしを支え、安心して子育てできる生活環境等の充実	・地域を単位とした子育て支援体制の構築	・多様な保育サービスの提供等により保育所など既存施設の効果的な活用を図る	・地域子育て支援センターやたまっ子子育てミニサロンの設置促進、電話・電子メール相談の充実など、子育てに関する情報提供・相談体制の充実	・マイ保育園の定着	・毎日充実「放課後子どもクラブ」	
		・地域全体で子育てを支援する仕組みづくりを進める	・市町村による要保護児童対策地域協議会の設置促進など、児童虐待の予防と要保護児童への支援の充実	・子育て中の親子が、身近な場所で気軽に集い、子育てに関する相談や情報交換など相互に交流できる環境を整備	・手軽に利用できる子育て支援サービス	
		・地域の子育て経験者やNPO等の子育て支援活動を促進する	・延長保育や緊急時の保育サービス、小学校低学年児童等の放課後の居場所づくりなど、多様な保育サービスの充実	・多様なニーズに対応した保育サービスの充実を図り、仕事と子育ての両立を支援	・「ふくい3人っ子応援プロジェクト」	
		・育児を支援する制度・システムの定着を図る	・親の就労の有無にかかわらず、就学前の子どもに教育と保育を総合的に提供する「認定こども園」など幼保連携の促進	・病児・病後児や様々な障害のある子どもを持つ保護者が、安心して保育サービスを受けることができるよう支援		
		・豊かな感受性を養う教育環境を整備する	・市町村による乳幼児等の医療費助成や多子世帯に係る保育料軽減への支援など、子育て家庭の経済的負担の軽減	・子育てに関する情報の総合的かつ一元的な提供		
			・妊産婦や乳幼児の健康などに関する相談体制や訪問指導の充実			
			・県立中央病院を核とする周産期医療体制の充実や新生児や母体搬送の充実による安心できる出産環境の整備			
	・行政支援に加え、企業、地域も巻き込んだ子育てしやすい支援策・優遇策の充実		・医療圏ごとの小児救急医療体制の充実			
		・親子を地域・職場で支え見守る相談支援体制の整備を促進する	・「とやま子育て応援団」の展開やフォーラムの開催など、地域全体で子育て家庭を応援する気運の醸成	・地域における子育て支援団体等の活動を支援するとともに、地域と産学官による幅広い連携・協力体制を構築	・「女性活躍会議」(「参画」から「活躍」へ)	
		・女性の様々なチャレンジへの支援により、女性の社会参画を促進する	・とやまっ子さんさん広場など異年齢の子どもが集う居場所の設置促進	・子どもの健全育成を図るため、子ども交流センターを設置し、産学官連携、ボランティアの活用等により、民間の創意工夫を活かした魅力溢れる遊びや学びの場を提供	・女性キャリアプログラム	
		・男女ともに仕事と家庭・地域生活を両立できる環境整備の普及啓発・取組促進を行う	・元気な高齢者など地域の子育てを支援するボランティア人材の育成、認定と地域の子育て力を活かした支援活動の促進	・県民が仕事と家庭生活の調和(ワークライフバランス)を図るため、各企業が自主的に雇用環境の整備に取り組むよう支援します。	・「家族時間」を長くする	
			・「仕事と子育て両立支援推進員」の中小企業訪問や職場における子育て研修への講師派遣などによる一般事業主行動計画の策定	・子育て支援に積極的な企業の社会的評価を高めるため、ワークライフバランス企業の登録、公表、表彰等の取組を推進します。	・「めいわくありがとう縁結び」の拡大	
			・中小企業の子育て支援を促進する取組みへの支援	・協賛企業の協力を得て多子世帯を支援するプレミアム・バスポート事業を推進することにより、民間企業の子育て支援に対する取組みを促進します	・「ママ・ファースト運動」の展開	
			・事業主を含めた職場全体の意識改革を促すためのセミナーの開催や、積極的な取組を実施する企業の表彰、表彰企業の取組事例の紹介による他企業への普及啓発			
	・男性に対する育児休業制度等の定着促進や事業所内保育施設の整備促進					
	・ノー残業デーの導入や有給休暇の取得促進など、労働時間の短縮に向けた取組みの啓発や、子育て期の多様な勤務形態(短時間勤務等)の導入促進					
	・出産や子育てを機に離職した者に対する再就職支援や事業主に対する再雇用制度の普及啓発					
	・企業における女性管理職候補者の資質向上のための研修の実施など、管理職への登用促進					
	・チャレンジ支援コーナーでの相談や各種講座の充実による女性のチャレンジ支援					

表 4-16 子育てしやすい環境整備に関する各県の総合計画等での取組(2)

論点	対策イメージ	新潟県	富山県	石川県	福井県	
子育て、社会参加する女性の暮らしを支え、安心して子育てできる生活環境等の充実	・行政支援に加え、企業、地域も巻き込んだ子育てしやすい支援策・優遇策の充実		・富山県女性のチャレンジ支援連絡協議会による効果的な支援体制の構築や、チャレンジに関する総合的なサイトの開設による情報提供の充実			
			・短時間勤務など多様な勤務形態の導入による職場での働き方の見直し促進			
			・女性医師のライフステージに応じた、働きやすい勤務環境の整備・充実			
	・防犯や情操教育、日常の移動バリア解消などからみた子育てしやすい、子どもの目線に立ったまちづくり			・学校安全パトロール隊をはじめとする見守り活動など、子どもを事故や犯罪から守る地域ぐるみの安全対策の推進	・犯罪等の防止や安全な交通の確保に配慮したまちづくりを推進します。	・女性の安心地域づくり
				・誰もが安全で快適に乗降できるノンステップバス(5)や路面電車万葉線の新型低床車両の導入などに対する支援	・公共施設など誰もが利用する施設において、段差の解消や授乳設備の設置など子育てしやすい環境の整備を促進します。	・キッズデザイン「子どものまち」づくり
					地域全体で子どもを犯罪から守るため、防犯ボランティアの活動を支援するとともに、子どもの安全に関する情報提供体制を充実します。	
生活、暮らしやすい職と生活を支えるアクセス手段確保とICT活用を組み合わせた適切な機能配置の構築	・日常生活スタイルにあった子育て等関連機能の適切な配置(保育、教育、買い物、職場、等)		・事業所内保育施設の設置促進など仕事と子育てを両立しやすい職場環境の形成			
	・日常行動における利便性の高いアクセス手段や交通ネットワークの充実		・北陸新幹線新駅の交通結節機能の充実(既存鉄道との乗り継ぎのための新駅整備、駅前交通広場の整備など)、路面電車万葉線の現高岡駅への乗り入れ、異なる路線間の直通運転などシームレスな公共交通サービスの提供の支援	・公共交通機関の利便性向上等による利用促進並びに生活路線バス等の運行支援を行います。	・電車・バスの生活利便性の向上	
			・県内のバス、路面電車、鉄道等に共通して使用できるICカードシステムの導入を支援し、乗り継ぎの円滑化や運賃収受の簡略化など、公共交通利用者の利便性向上と利用促進	・国や市町等と連携して鉄道や生活路線バス等の維持確保に努めるとともに、地域特性に応じた公共交通体系の検討を進めます。		
			・鉄道、路面電車、バスの運行ダイヤの改善(本数増加、最終便繰り下げ、バスのダイヤ化など)、コミュニティバスの導入、パークアンドライド駐車場や停留所の整備など、利用者サービス向上の取組みへの支援			
			・鉄道、路面電車、バスの維持活性化対策への支援			
	・日常生活を支援する効果的なICT活用策の構築		・住民生活に必要な民営、公営バス路線の運行維持や車両購入に対する支援			
			・学校、自宅での画像、動画等を用いた教育や生涯学習の推進			
			・県民が使い易い電子申請システムの整備など電子自治体の推進			
			・SOHO、テレワーク、テレビ会議等の高度情報通信ネットワークを活用した新しい働き方の普及促進			
		・IT研修など、県民のIT活用能力の向上の促進				
レジャー、週末の豊かな生活環境の充実	・週末レジャーの充実に向けた農山漁村との共生・交流施策の充実		・水田等オーナー制度の推進、フォレストリーダーによる子どもたちへの森林環境学習機会の提供、地引網体験や修学旅行の受け入れなど、都市の子どもや親子を対象とした農山漁業体験等の推進	・多様な自然景観や伝統文化、既存の施設など地域の資源を活用したグリーン・ツーリズムや農山漁村地域でのワーキングホリデー等による都市と農山漁村の交流を促進します。		
			・都市と農山漁村の交流の拠点となる市民農園等交流施設の整備			

#### 4.3.2. 高齢者の生活環境について

既存資料の整理、アンケート調査の結果を受けて、現状の北陸圏の特徴や問題点を把握するとともに、各県における子育てしやすい生活環境形成に関する既往の取組にも配慮した上で、課題をとりまとめた。

今後の高齢者の生活環境充実に向けた課題は、以下3点にまとめられる。

**【課題1】：都市と農山漁村の距離の違いを踏まえた、ICT・公共交通の活用による日常生活のサービス提供機会の向上**

- ・ 中山間地域では、人口減少・高齢化、生活機能の低下もあり、暮らしの不安が増大している。
- ・ こうした生活機能は今後地域ごとに維持することは困難と想定されるため、買物、医療などの生活に直結した機能の利用は、一定の集積のある都市部に依存することが考えられる。
- ・ また、自動車依存が高いものの、将来、運転できなくなることへの不安から、高齢者の「外出時の不便・不安」については、「公共交通機関の便数」等への不満や、「道路・交通機関の段差解消」など対応すべき課題は多い。
- ・ しかし、日常行動が30分とされる中、中山間地域等と都市部との距離は一様ではなく、それぞれの地理的条件に応じた生活サービス機能の確保策や地域の実態に即した使い勝手の良い交通手段の確保に向けた工夫が必要である。

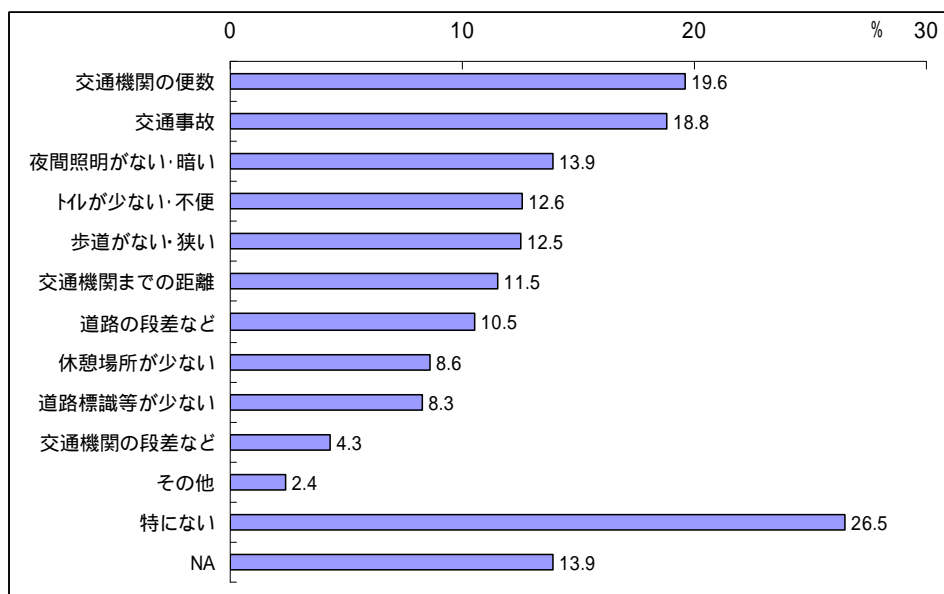


図 4-117 高齢者の外出時の不便・不安

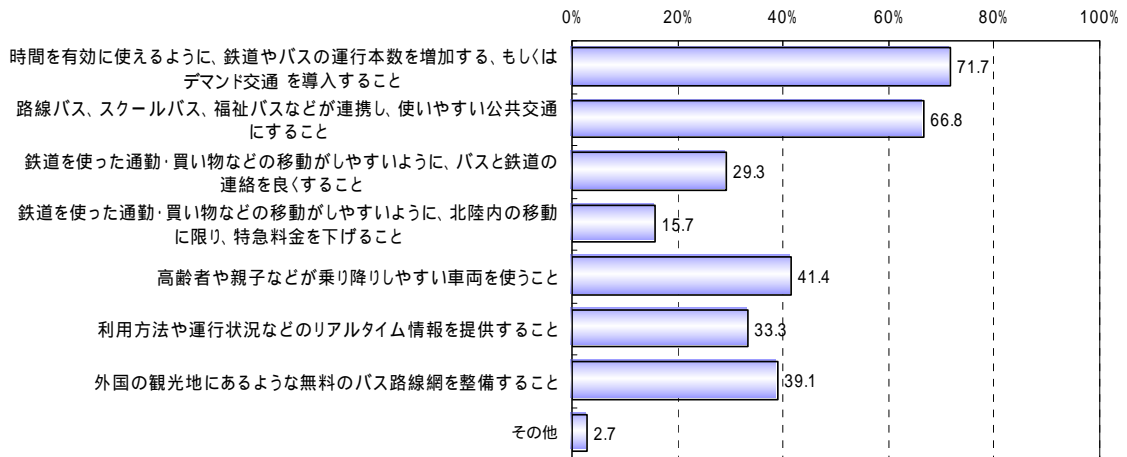


図 4-118 高齢者が望む地方交通のあり方

**【課題 2】：中山間地域が抱える地域産業や国土保全等の維持への不安解消に向けた農山漁村の豊かな地域資源を活かした地域活性化策の展開が必要**

- ・ 中山間地域の農山漁村に対する施策は比較的充実している一方、都市と農山漁村の近接性を活かした地域交流による活性化施策は、各県とも今後の施策展開が課題となっている。
- ・ 著しい高齢化や深刻な少子化問題を抱える中山間地域では、豊かな地域資源を有しており、それら資源を活かして、除雪体験や農林漁業体験等の都市部との交流施策による地域活力の再生が不可欠である。

**【課題 3】：ICT等の活用や広域的な支援等を通じた救急医療や雪害等災害への中山間地域の不安解消が必要**

- ・ 冬期に約 3 m の積雪のある地域が存在し、降積雪による道路閉鎖や雪下ろしなど冬期の暮らしに不安がある。
- ・ これまでも、高齢者世帯等に対する雪下ろしボランティアを募るなどで対応してきたが、近年はこうした活動も十分に機能しない状況にある。
- ・ 高齢化の進む中では、救急医療への不安も大きく、様々な対策がとられてきたが、県境部や半島部等の条件不利地域では、その対策は急務となっている。
- ・ 救急医療や防除雪対策等に対しては、圏域内でも試行されている ICT の活用による医療サービスの提供の普及や救急医療ネットワークの強化、防除雪対策等への広域支援といった広域的な対策強化が不可欠である。

表 4-17 高齢者の生活環境充実にに向けた課題の抽出・整理

	特徴・問題	課題
地勢等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の生活圏は 30 分の移動が基本</li> <li>・条件不利地域でも都市部からの時間距離が異なる地域が存在</li> </ul>	<p>【課題 1】都市と農山漁村の距離の違いを踏まえた、ICT・公共交通の活用による日常生活のサービス提供機会の向上</p>
交通・情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車依存度は高いものの、今後生活を支える日常的な足の確保が困難</li> <li>・使い勝手の良い公共交通充実への要望高い</li> </ul>	
生活等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部では災害への不安、半島地域や中山間地域では日常の移動や医療などに関する暮らしの不安が大きい</li> </ul>	
地勢等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農山漁村は、美しい個性ある景観や歴史・文化、豊かな農林水産物など資源を保有</li> </ul>	<p>【課題 2】中山間地域が抱える地域産業や国土保全等の維持への不安解消に向けた農山漁村の豊かな地域資源を活かした地域活性化策の展開が必要</p>
人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半島地域や中山間地域では、人口減少、高齢化の進行が顕著</li> </ul>	
生活等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部では災害への不安、半島地域や中山間地域では日常の移動や医療などに関する暮らしの不安が大きい</li> <li>・生活疲弊を助長する降雪（困難な除雪）</li> <li>・農林水産業の低迷（耕作放棄地、担い手の減少、鳥獣被害）</li> </ul>	
人口・世帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半島地域や中山間地域では、人口減少、高齢化の進行が顕著</li> </ul>	<p>【課題 3】ICT等の活用や広域的な支援等を通じた救急医療や雪害等災害への中山間地域の不安解消が必要</p>
交通・情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車依存度は高いものの、今後生活を支える日常的な足の確保が困難</li> <li>・CATVなどICTの普及は進む</li> </ul>	
生活等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部では災害への不安、半島地域や中山間地域では日常の移動や医療などに関する暮らしの不安が大きい</li> <li>・生活疲弊を助長する降雪（困難な除雪）</li> </ul>	

表 4-18 高齢者が暮らしやすい環境整備に関する各県の総合計画等での取組(1)

論点	対策イメージ	新潟県	富山県	石川県	福井県	
都市部との距離に配慮した支援策の構築	・都市部と近接する条件不利地域と、都市と隔絶する距離圏にある条件不利地域の2つのタイプをモデルとして支援策を構築					
生活・高齢者などの暮らしに必要な生活サービスの(医療・買い物・年金)効率的な確保策の構築	・ICT活用、移動型サービス等の併用による機能配置の効率性向上への工夫	地域密着型サービス等の提供体制の整備を促進する 高齢者、障害者の地域での生活を支援する				
	・救急医療等の対策の充実	二次医療圏単位を基本とする24時間小児救急医療体制の構築や救命救急センターの設置に向けた取組など、救急医療体制の整備・充実を図る	・地域における医療機能の分担と連携による、急性期から回復期を経て、在宅医療に至る病状に応じた切れ目のない医療サービスの提供	・救命救急センターや休日夜間急患センターの充実など、いつでも救急医療が受けられる体制の強化	・医師・看護師の人材確保	
		県民が地域で安全・安心な医療が受けられる体制の整備を進める	・公的病院の機能の重点化、がん等の疾病別専門医療機能の充実	・地域医療を確保するため、能登北部地域をはじめとするへき地における医師の不足や小児科医・産科医などの地域偏在の解消に努めるとともに、看護師の養成・確保	・地域医療ネットワークの整備	
		総合的な医師確保対策を推進する	・救急医療体制、小児救急医療体制、周産期医療体制、へき地医療体制、臓器移植等の医療提供体制の整備	・県立病院の果たすべき役割を検討し、がん医療、救急医療、災害医療などの政策医療や、高度医療等の医療機能を総合的に充実強化	・救急専門医「ドクタープール制度」を導入	
		魚沼基幹病院(仮称)を整備し、それに連動する県立4病院の再編を行う	・かかりつけ医や訪問看護ステーション等を中心とした在宅医療支援システムの整備 ・地域におけるリハビリテーション機能の整備			
防災:人口減少、高齢化を助長する降雪等の影響を軽減する支援策の構築	・効果的な防除雪対策の工夫(家屋、ハード)	安全に暮らせる地域防災機能の向上や高齢者にも配慮したバリアフリー化の促進など、安全・安心な農山漁村の居住環境を整備する	・生活利便性、防災・居住環境の向上等の機能を持つ都市計画道路、優れた景観形成、災害時の避難地等の機能を持つ都市公園や、上下水道などの都市基盤施設の整備により、快適でうるおいのある市街地形成や、災害に強いまちづくりを推進			
		ハード、ソフト面の総合的な環境整備を進め、さまざまなバリアを取り除き、「福祉のまちづくり」を推進する				
	・防除雪への広域的な支援体制構築		・降雪初期での除雪の徹底、重要路線における除雪レベルの向上、路面凍結対策の強化、道路管理者間での連携強化等による車道除排雪の実施			
			・県、市町村、県民が各々役割を分担し、一体となった歩道除雪の実施			
			・住民が主体となって実施する地域ぐるみの除排雪体制の充実や、歩行者等の協力による「雪と汗のひとかき運動」の推進			
			・高齢者や障害者世帯など支援を必要とする人に対する市町村や地域住民等による除排雪への支援			
			・地域の住民等の参加による除雪ボランティア活動の促進			
			・雪崩危険箇所を中心としたスノーシェッドや雪崩防止柵などの整備による安全な通行の確保			
	・雪崩防止柵の整備による山間地の住民の安全確保					
	・雪崩防止機能を有する森林(なだれ防止林)の維持・造成の推進					

【出典】各県総合計画



表 4-19 高齢者が暮らしやすい環境整備に関する各県の総合計画等での取組（２）

論点	対策イメージ	新潟県	富山県	石川県	福井県	
交通：日常的な足を支える交通手段の確保策の構築	・地域実態にあった交通手段の確保策の構築			・公共交通機関の利便性向上等による利用促進並びに生活路線バス等の運行支援を行います。		
				・国や市町等と連携して鉄道や生活路線バス等の維持確保に努めるとともに、地域特性に応じた公共交通体系の検討を進めます。		
産業：資源を活かした人々の生きがいにつながる交流や鳥獣被害の対策強化	・地域資源の発掘・活用による交流策	高齢者や障害者の生きがいづくりを支援し、地域活動を担う人材として積極的な社会参加を促進する	・市町村、NPO等と連携したグリーン・ツーリズムの推進	・多様な自然景観や伝統文化、既存の施設など地域の資源を活用したグリーン・ツーリズムや農山漁村地域でのワーキングホリデー等による都市と農山漁村の交流を促進します。		
		ボランティア活動や地域福祉活動への支援を行い、これらの活動への住民参加を促進する	・都市と農山漁村の交流の拠点となる市民農園等交流施設の整備			
		農山漁村が有する豊かな自然や美しい景観など多様な地域資源を生かしながら、高速情報通信基盤など若者にとっても魅力あるむらづくりを推進する	・研究会の開催や、地域住民、NPO等の多様な主体が参画するイベントの開催を通じた、推進気運の醸成と魅力の発信			
			・研修開催、モニター事業の実施、立山黒部アルペンルート観光との連携など、農林水産業との複合経営が可能なレストラン・民宿等のグリーン・ツーリズム・ビジネスの支援			
			・水田等オーナー制度の推進、フォレストリーダーによる子どもたちへの森林環境学習機会の提供、地引網体験や修学旅行の受け入れなど、都市の子どもや親子を対象とした農山漁業体験等の推進			
			・「いきいき富山館」や3大都市圏におけるイベントの活用など、農山漁村の魅力の都市部への情報発信			
	・鳥獣被害への対策の工夫		・ソバづくり(利賀)や定置網漁業(氷見)等による諸外国との技術交流など、農林水産業を通じた国際交流の推進			
		多様な担い手を集落内外に確保するとともに、互いに助け合う地域ぐるみ営農の確立など継続的な営農体制の構築を推進する	・ニホンザル、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンカモシカ、カワウ等の人とあつれきを生じている野生鳥獣の保護管理の推進	・クマ、イノシシなど人とのあつれきが生じている野生鳥獣の計画的な保護管理	・鳥獣害被害対策のための防囲網づくり	
			・野生鳥獣共生管理員による住民等への技術的助言、研究会の開催等による地域支援や自然博物館ねいの里の相談業務の充実	・野生鳥獣と人とのすみ分け、希少な動植物を含めた多様な生物が生息できるよう、里地・里山の整備と奥山の保全		
			・狩猟者の育成・確保など野生鳥獣の保護管理体制の維持	・鳥獣害防止対策に取り組む地区に対する支援		
			・河川敷の草刈、牛の放牧帯の設置など、鳥獣被害を受けにくい総合的な地域づくりの推進			
			・里山の整備など野生鳥獣との棲み分けを図る森づくりの推進			

【出典】各県総合計画

#### 4.3.3. 外国人の生活環境について

既往調査に基づき、外国人居住者の暮らし向上に向けた課題を整理すると、日常生活における言語バリアの解消に集約される。

##### 【課題1】: 言語バリアの解消が急務

- ・ 外国人観光客からは、標識、案内、道路標識が判別できず、道迷い等が発生していること、さらには、バスや電車への乗車方法等が分からないこと等が指摘されている。
- ・ 外国人居住者からは、就業、病気、教育、住宅、地域コミュニティ参加等日常生活に加え、災害時の対応についても不安が指摘されている。
- ・ ルールやマナー等の習慣の違いもあるが、日本語の識字率が5割程度であることを鑑みると、言語バリアの改善を中心としたユニバーサルデザインへの対応が主要な課題である。

#### 4.4. 誰もが暮らしやすい生活環境の形成方策

##### 4.4.1. 対象別の総合的な対策の展開（パッケージ施策）

###### （1）子育てしやすい環境の実現方策提案

4.3.において整理された課題解決に向けて、先駆的な取組事例等も参考とした上で、子育てしやすい環境の実現に向けた方策モデルを示した。

なお、提案に当たっては、以下を基本方針として、対策の方向性を提案した。

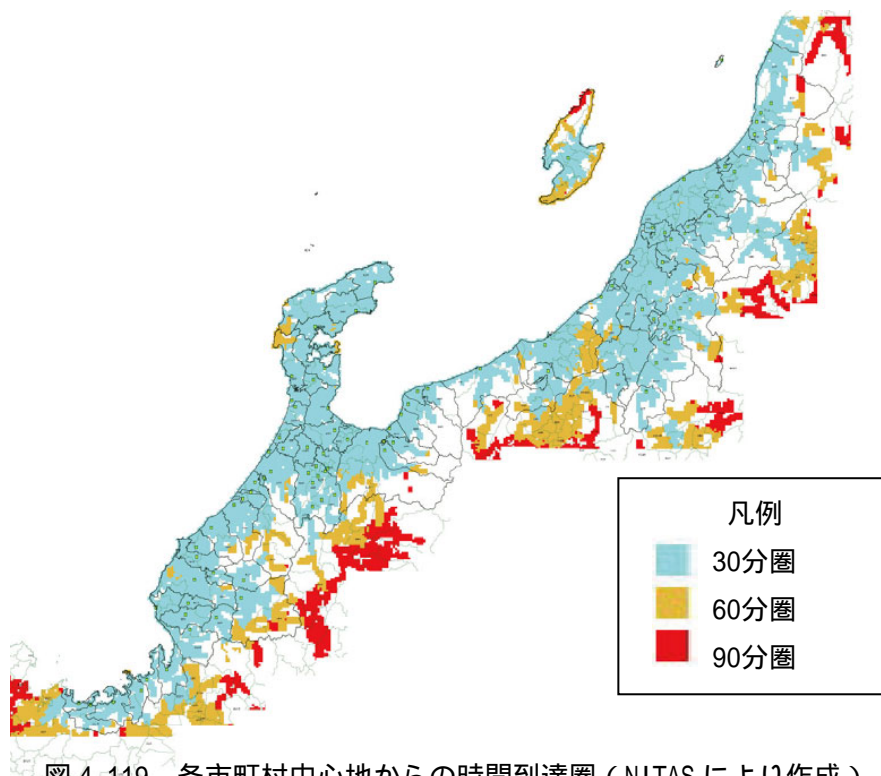
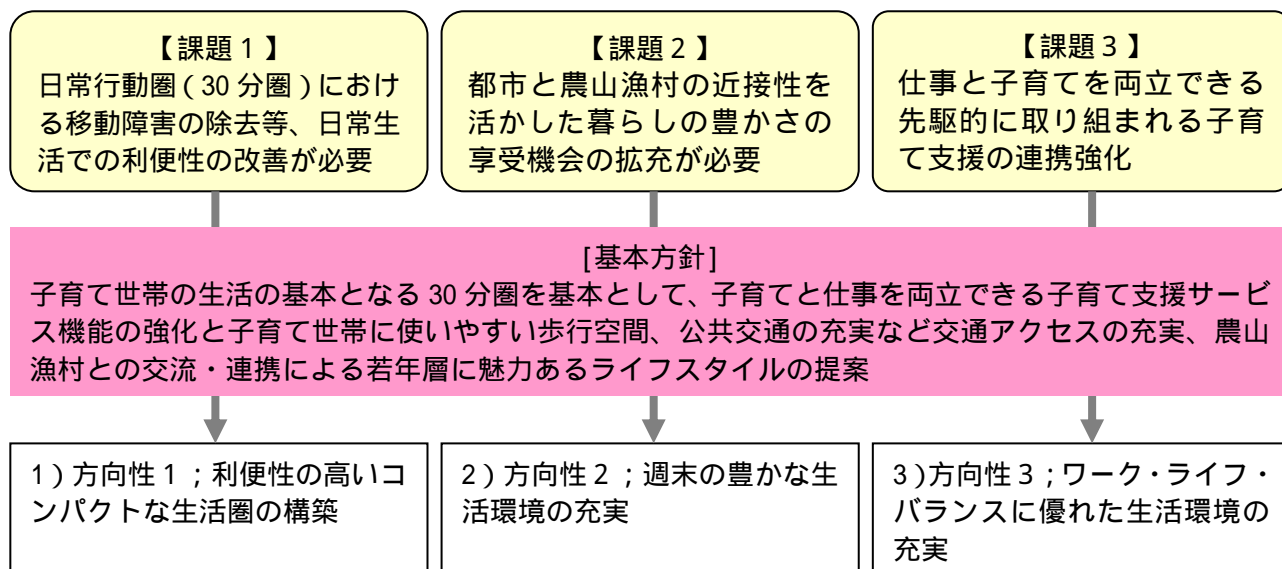


図 4-119 各市町村中心地からの時間到達圏（NITAS により作成）



## 2) 方向性 2 ; 週末の豊かな生活環境の充実

対策方針：週末の余暇活動の充実に向けた農山漁村との共生・交流施策の充実

子育て世帯の暮らしにおける休日の暮らしのスタイルについて、北陸圏の特徴である都市と農山漁村の近接性を活かしたモデルを提案する。

北陸圏の豊かな自然環境や地域資源を活用し、子どもと共に楽しむことができる余暇の実現という独自の魅力を提供することで、他圏域には実現できない、魅力ある暮らしを構築する。

休日の行動は日中のレジャーが中心となることから、豊かな自然との触れ合いやものづくり体験など、楽しみながら子どもと学ぶスタイルや、公共の体験型施設などを活用したレジャー、さらに子育て世帯を応援する企業の優遇サービス利用など、子育て世帯の経済的負担が少ない余暇の楽しみ方を提案する。

また、子育てしながらも、夫婦の時間を持つことのできるようなサービスを充実し、子育て世帯にとって魅力のあるライフスタイルを提供できるような地域の取組を進める。



図 4-121 子育て世帯の休日の暮らしのスタイル

- 3) 方向性3 ; ワーク・ライフ・バランスに優れた生活環境の充実
- ・ 社会参加する女性の暮らしを支え、安心して子育てできる生活環境等の充実
  - ・ 子育てに配慮された就業環境や利便性の高い交通手段、都市機能の適切な配置やICTの活用の組み合わせによるコンパクトな生活圏の構築

対策方針：平日の生活行動における対応

- ・ 地域を単位とした子育て支援体制の構築
- ・ 行政、企業、地域が一体となった子育て支援策・優遇策の充実
- ・ 働く女性の生活スタイルに配慮した都市機能の適切な配置  
( 保育所、教育施設、買い物等商業施設、行政サービス等 )
- ・ 利便性の高い公共交通機関や交通ネットワークの充実
- ・ 日常生活をサポートする効果的なICT活用

子育て世帯の平日における一日の生活パターンを基本とした対策モデルを提案する。

通勤の動線上に託児施設や救急医療機関など主要な都市機能が配置されたコンパクトな都市を形成する。また、通勤時の負担軽減策として、既存の公共交通機関の利便性向上や新交通の導入などにより通勤時間の短縮やラッシュの解消をはかる。

就業地においては、ICTの活用による見守りサービスや相談ポータルなどの勤務時間内においても時間や場所の制約を受けない子育て支援サービスを充実する。

また、職住近接のメリットを活かした就業後の時間活用による食育の展開や、急な残業などにも対応できる24時間保育や食事代行サービスなどの充実など、働く女性のニーズに合致した、ワーク・ライフ・バランスに優れた生活環境を整備する。



図 4-122 ワーク・ライフ・バランスに優れた生活環境の充実(平日)モデル

対策方針：育児に伴う関心事への対応

- ・ 防犯や情操教育、日常の移動バリア解消など、子どもの目線に立った子育てしやすいまちづくり

育児を行う上での日常の関心事として、教育や医療、子どもの目線での暮らしやすさ、防犯に関する安全性の確保といった対策モデルを提案する。

教育レベルの高い北陸圏において、サイエンス教育などの先進的な取組を始めとした多彩な教育プログラムの実施など、学校教育の充実を図る。また、パウチャー制度を充実させ、子どもが関心を持ち、主体的に取り組むなど個別の才能を最大限に引き出すことのできる環境についても実現する。

また、医療についても、急な発病に対しても冷静な対応が可能となるよう、電話相談などの窓口を確保することで医療機関の負担の軽減を図るとともに、深夜の発病などにも対応を可能とする小児救急医療体制を確立し、安心して子育てすることのできる環境形成に努める。

また、子どもを主体として、子ども自身が暮らしやすい環境を確保するため、キッズデザインによるまちづくりを実践し、子どもの目線に立った空間形成を推進する。

さらに、ICTを活用した防犯サービスなど、子どもへの犯罪行為に対する防衛機能を確保するとともに、地域コミュニティの強化により、地域が一体となって子どもを守り・育てる地域の形成を実現する。

## 教育

子どもの未来もこれで安心  
(学校教育の充実)

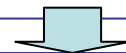
理数(サイエンス)教育



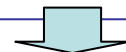
【出典】福井県HP

子どもも私も自由に選べる社会教育  
パウチャー制度

利用者への教育選択権の自由  
を確保



利用者に利用権(パウチャー)  
を付与



付与されたパウチャーを利用  
して受けたサービスを選択

図 4-123 教育のモデル

## 医療

子どもの急な  
病気は電話相談

子どもの急な病気に困ったら、まず  
福井県子ども救急医療電話相談  
#8000

お子さんが急に病を患い始めると、親御さんや周囲の皆さんはご心配な気持ちになると思います。緊急時に、電話で専門医のアドバイスをいただくと、お子さんの病状が軽くなるかもしれません。小児科医が電話でアドバイスをします。

【受付時間】  
毎日19時～23時

【電話番号】  
#8000（通話料無料）  
※マイナンバーカードをお持ちの場合は「0776-25-9955」へ

【お問い合わせ先】  
富井県立総合医療センター 小児科  
〒920-8585 富井県小浜町1-1-1  
TEL: 0776-25-9955

小児救急医療体  
制完備で深夜の  
病変にも対応

富山市救急医療センタ  
ー（富山市）



【出典】福井県HP

【出典】北日本新聞社HP

図 4-124 医療のモデル

## キッズデザインのまちづくり

子どもの目線にたった空間づくりで  
子どもが元気にすごせるまちづくり



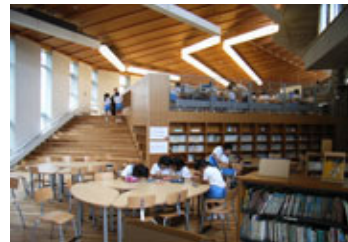
KIDS  
DESIGN  
AWARD

【出典】内閣府HP

キッズデザインのまちづくりワークショップ  
（福井県）



【出典】アルマス・バイオコスモス研究所HP



鯖江市立中河  
小学校(福井県)

福教大附属福岡小  
学校における児童  
参加の広場デザイ  
ン（福岡県）



【出典】第2回キッズデザイン賞HP

図 4-125 キッズデザインのまちづくりのモデル

## 防犯

子どもが改札ゲートを通るとメール  
通知がくるからお迎えも安心

エキッズ（東京都・神奈川県）

お子様がPASMOで改札を通過すると...

これなら安心！

4月14日 11時45分  
ハチツギさん  
「乗車記録・自由が丘駅」  
を入境されました。

乗車セキュリティ

通過日時、お子様のお名前（名字は省略）、  
駅名、入場or出場が明示されたメールが配信されます。

どんな特長があるの？

【出典】東急セキュリティHP

地域で子どもの安全見守り隊

防犯パト  
ロール隊  
（富山市）



【出典】富山市HP

全日本デリバ  
リー業安全運  
転協議会会員  
企業配達員に  
よる見守り・通  
報（大阪府）



【出典】読売新聞HP

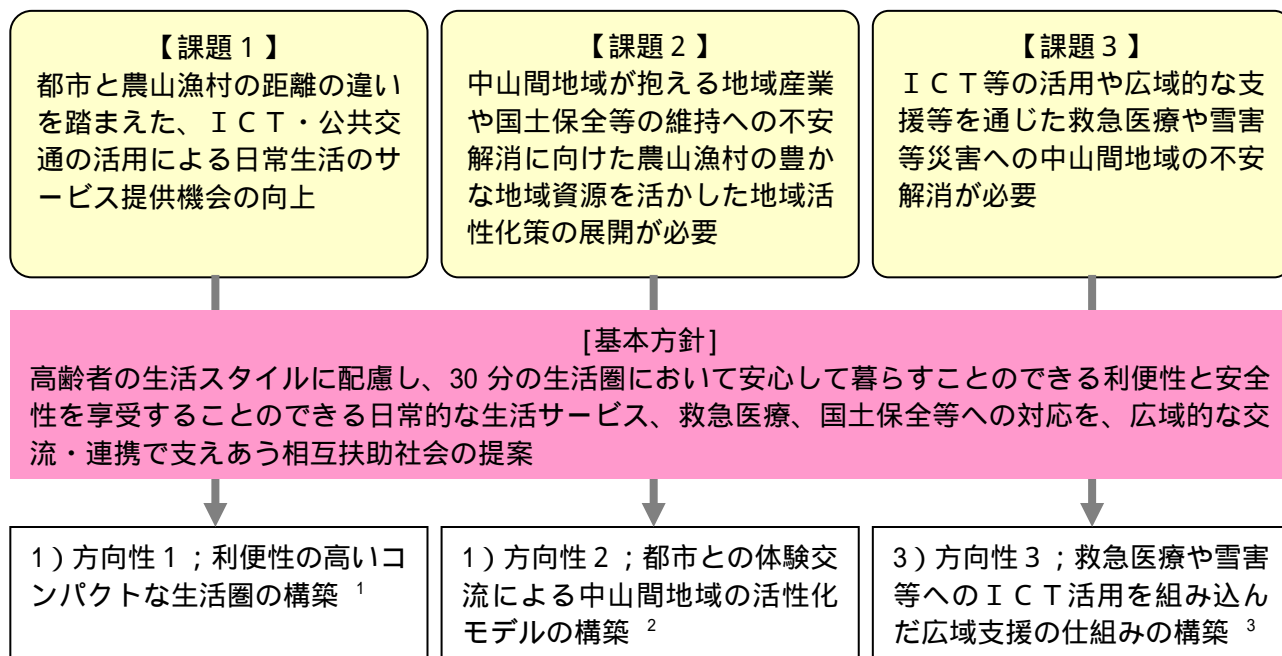
図 4-126 防犯のモデル



## (2) 高齢者が暮らしやすい環境の実現方策提案

4.3.において整理された課題解決に向けて、先駆的な取組事例等も参考とした上で、高齢者が暮らしやすい環境の実現に向けた方策モデルを示した。

なお、提案に当たっては、以下を基本方針として、対策の方向性を提案した。



1 都市と農山漁村との距離による違いについては、「5.2.の都市と農山漁村の共生する都市圏形成の検討」における提案と重複することから、ここでは、30分圏を基本としたコンパクトな市街地形成に注視し、提案した。

2 当該の方向性については、(1)子育てしやすい環境の実現方策提案における「方向性 2 ; 週末の豊かな生活環境の充実」を中山間地域側からみたものであることから、ここでは割愛する。

3 当該の方向性については、「5.2.の都市と農山漁村の共生する都市圏形成の検討」における提案と重複することから、ここでは割愛する。

1) 方向性1；利便性の高いコンパクトな生活圏の構築

対策方針：高齢者が暮らしやすい市街地の形成  
 ・コンパクトな市街地とバリアフリーの歩行空間で歩いて暮らせるまちづくり

高齢者のライフスタイルに配慮して、市街地の中心部を起点に30分の移動を基本とした暮らしに必要な機能をコンパクトに集約し、これらがバリアの少ない交通基盤や歩行者空間で結ばれることにより、歩いて暮らせる地域づくりを推進する。また、中山間地域に広がる豊かな自然環境等の地域資源や中山間地域の暮らしの支援について、都市・農村の交流体験やNPOなどの地域団体を通じた活動により生活の質の向上に努める。



図 4-127 高齢者のライフスタイルのモデル

(3) 外国人が暮らしやすい環境の実現方策提案

4.3.において整理された課題解決に向けて、先駆的な取組事例等も参考とした上で、外国人が暮らしやすい環境の実現に向けた対策の方向を示した。

1) 方向性1；言語バリアのない生活環境の形成

対策方針：言語バリア改善を中心としたユニバーサルデザイン導入

外国人が暮らしやすい環境実現に向けて、を中心とする対策メニューを整理した。外国人においては、言語の障壁が最大の課題となっており、公共サービスや、交通移動などの場面での言語バリアを感じさせない利便性の高い環境整備が必要である。一方、外国人居住者の出身は多様であり、言語による対応は多言語化することから、文字に頼らない交通案内サインの導入や、ICTを活用した多言語対応の情報提供サービスなどが有効である。

以下に事例を示す。

【ピクトサインによる案内表示】

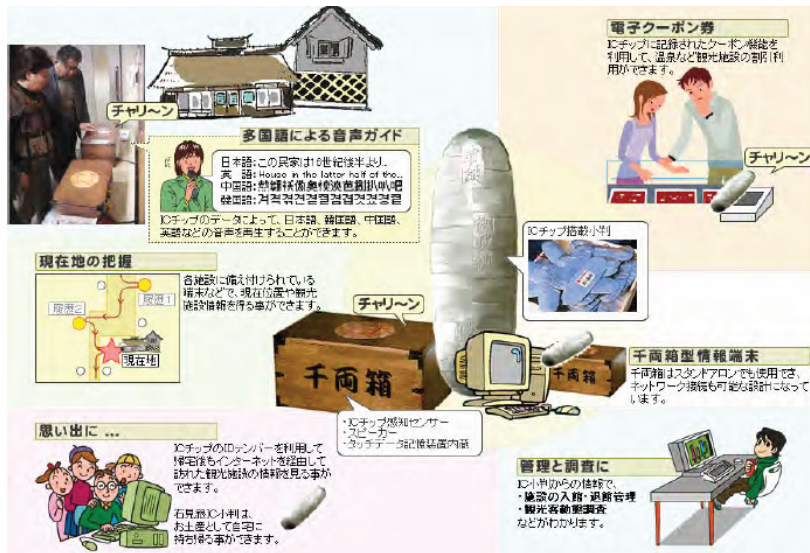


【出典】交通エコロジー・モビリティ財団 HP

図 4-128 言語に頼らない案内サイン

【ICタグを利用した多言語音声観光ガイド等の提供】

島根県大田市の石見銀山で行われている、RFID搭載のプラスチック製丁銀型地域通貨「石見銀IC小判」。電子マネーとしての機能のほか、観光施設に置かれた千両箱型音声再生装置にかざすことで、タグに記録された言語情報を読みとり、多言語による観光ガイド（日本語、英語、韓国語、中国語）が聞けるシステムである。

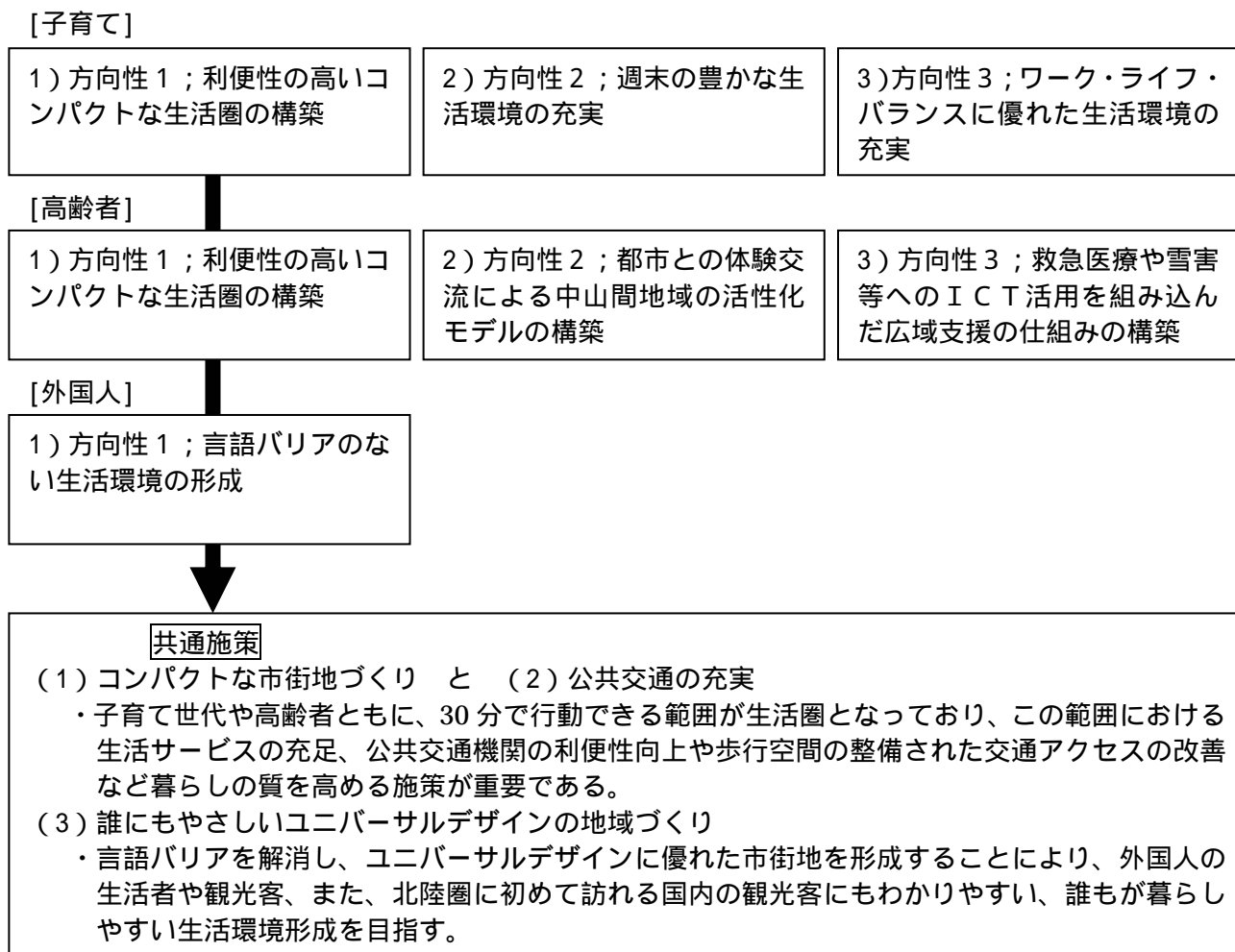


【出典】総務省 HP

図 4-129 ICタグを利用した多言語音声ガイドイメージ

#### 4.4.2. 課題解決に向けた共通施策

4.4.1.において、「子育て世代」、「外国人」及び「高齢者」を対象とした生活環境を充実するための対策方針について示した。これらに基づき、北陸圏における誰もが暮らしやすい生活環境の形成に向けた共通施策について示す。



次ページ以降に、上記3つの共通施策について、取りまとめた。

(1) コンパクトな市街地づくり

30分生活圏において、医療や行政サービス、買い物場などの生活利便施設を配置し、日常生活に必要な都市機能が集約され、誰もが徒歩でアクセスできるコンパクトな市街地づくりを推進する。

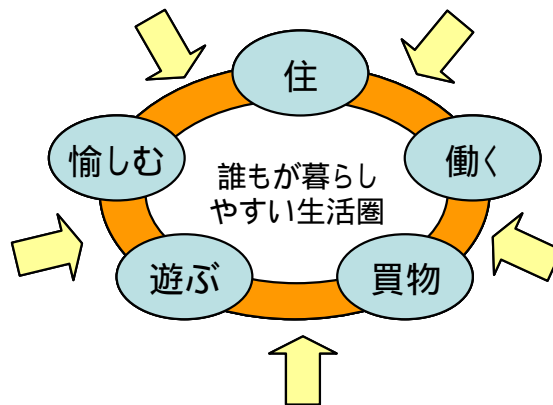


図 4-130 コンパクトな市街地づくり

(2) 公共交通の充実

誰もが暮らしやすい環境の構築に向けて、都市サービス機能の再配置と同時に、子育て世代や高齢者などが自由に移動できる環境づくりを進める。特に自動車の運転に不安のある高齢社世代に配慮し、利用しやすい公共交通機関の充実を図る。



図 4-131 富山市 LRT とフィーダーバスとの連携

(3) 誰にもやさしいユニバーサルデザインの地域づくり

コンパクトな市街地形成と合わせて、誰もが暮らしやすい地域づくりを進めるにあたり、地域に暮らすすべての人が支障なく生活し、活動できる環境形成が必要とされる。ピクトサインの活用などによる言語バリアの解消や、移動空間における段差や位置表示の明確化などのバリアフリー化について積極的に推進するとともに、NPOやボランティア活動などを支援し、地域が一体となったユニバーサルデザインの地域づくりを進める。



図 4-132 ユニバーサルデザインの地域づくり